

組合学校 2022 第 2 回

定年まで働くという生き方 短時間勤務で働くという生き方

時：9月23日（金・祝） 10時～

所：京都教育文化センター 301 （京都市左京区聖護院川原町4-13）

「あといくつお正月を過ごせば定年!？」とカウントダウンの始まった人も、まだまだ先の坂の上の雲と霞の向こうという人もおられることと思います。私だってついこの間までは遙か先の事と思っておりました。ですがいつの間にやら親の介護にあたふたとしたのも一瞬の間にすぎ、定年まで指折り数えるほどになってまいりました。気が付けば体力の低下も著しく、職場環境はIT禍、じゃなくてIT化とデジタル化が進んで、こりゃいつまでやれるものかと溜息をつくことばかり。そんな時に再任用期間も過ぎて非常勤講師をしながら炎天下にも自転車でシャツをひらひらさせながら颯爽と通勤してくる漢の姿が目飛び込んできたのです。何かこれから生きていくヒントが欲しい!——

というわけで今回の企画をスタートさせます。個人差はあるとは言うものの（くだんの漢は元氣満々そうであるのに対し私は青色吐息。桃色吐息には程遠い）元氣に、少なくとも今まで培ってきた大切にしてきたことを踏みにじられたくはない!「ITができん奴はお払い箱じゃ!」とほざく魍魎魍魎どもがいるのは私の頭の中だけだとは思いますが、時にそんな妄想を幻視してしまうのは私もさうとう危ないところに追い込まれているに違いない。元氣な漢の言葉を聞いてみたい。それから私が今まで知らなかった働き方を切り開いてきた人の話を聞いてみたい。育児短時間勤務をはじめ短時間勤務をすることの大変さ、知られない苦勞を知ってみたい!と思うのは迷惑なことでしょうか?何かしらそこに私たちのこれからを生きていくヒントが隠されているような気がしてなりません。ということで、

組合学校第2弾、「定年まで働くという生き方、短時間勤務で働くという生き方」です。

ゲストスピーカーを招いてお話を聴きつつそれぞれの状況を交流しながら何が問題なのかを考えてみたいと思います。組合学校と銘打っていますが、組合員もそうでない人も、「学校で働いて生きる」ということはだれにとっても切実で大切でしんどくて——でも出来るならばしっかり全うさせたいものではないでしょうか。

このしんどさを乗り越えるためにも、職場を一度離れて集ってみませんか!?

トップダウンでなんでもいつの間にか決まってしまうことに疲れてしまうばかりでよいのでしょうか!?そんな時流を、ここから立て直したい。自分の生き方をもう一度足元から見つめ直すとともに、このしんどさの原因を探りたいと思うのです。

あなたの参加をお待ちしています。